

## 授業料不徴収協定に基づく派遣交換留学終了報告書

留学プログラム名	派遣交換留学		
所属（本学）	大学院理工学研究科機械制御システム専攻		
現在の学年	修士 1 年		
留学先国	ドイツ	留学先大学	シュツツガルト大学
留学期間	2014 年 9 月 1 日～ 2015 年 7 月 31 日		

### ① 留学先大学の概略

ドイツ南部の Baden Württemberg（バーデンヴュルテンベルク）州の州都シュツツガルトにある国立大学。理系学部が有名である。理系キャンパスは中央駅から電車で 10 分ほどいったところに位置し、文系キャンパスは中央駅から徒歩 5 分ほどのところに位置する。留学生は中南米や中国から来た学生が多かった。日本人はほとんどいなく、私が渡独した当時交換留学生では私一人であったが春学期からは 6 人ほどの日本人学生に出会った。

### ② 留学前の準備

東工大では研究室に所属していたため、留学先から遠隔操作で研究室にある自分のパソコンを操作できるようにして行った。また、先生との web ミーティングが出来るように Skype の準備もした。

語学面については、留学先での授業は英語のものもあるが、生活で必要であると思いドイツ語の勉強を留学の 10 か月前に始めた。具体的には青山にあるゲーティンステイチュートというドイツ語教室に通った。十分であったとは言えないが、ドイツ語で買い物するなど日々の基本的なことをこなすことは出来た。

### ③ 留学中の勉学・研究

交換留学生は正規の学生とは違い、終了試験を受けるのに特別な手続きが必要であった。そのほかにも初めの履修登録が必要ないなど他の学生とは違いがあるので、授業開始の時にそれぞれの授業の教授に確認することが大切である。

授業は専門分野のものだけでなく、ドイツ語や英語の語学の授業も履修した。特にシュツツガルト大学は交換留学の始め 6 週間に渡ってドイツ語の集中講義があり、その授業で学んだことはその後のドイツでの生活にとっても役立った。

### ④ 留学中に行った勉学・研究以外の活動

中学・高校のときに合唱団に入っていたので、留学中も大学の合唱団に所属した。練習は週 1 回大学の講堂で行った。クリスマスの時の老人養護施設でのコンサートや合唱団の定期演奏会などに出演した。ドイツ人の学生たちとともにドイツ語の歌を歌い、とても良い経験になった。

また、ドイツはヨーロッパの周辺国へ行きやすい場所に位置しているため、周りのくに（スイス、スペイン、チェコなど）に旅行にも出かけることができた。

### ⑤ 留学を終えて、自分自身の成長を実感したエピソード

留学に際し私は出来るだけたくさん日本以外出身の人たちとふれあい多様な価値観を吸収することを目標としていた。留学中たくさん友達とともに勉強したり、話したりすることで今まで自分では思いもなかった話など聞けて、考えの幅が広がったと思う。留学先で出会った友人たちはみな自分の国のことはもちろん他の国の文化やニュースの知識も豊富でまた自分の意見もしっかり持っていて、それを使って他の人たちとコミュニケーションを取っていた。

## ⑥ 留学費用

ドイツのバーデンヴェルテンベルク州の奨学金(月額 600 ユーロ)をもらっていた。向こうでの生活はほぼそれで賄えていたが、渡航費などは持ち出しとなった。

## ⑦ 留学先での住居

理系キャンパスの中に学生寮がありそこに住んでいた。そこには他の留学生たちなどたくさんの学生が住んでいるため、誰かのキッチンなどでパーティが頻繁に行われた。家賃も 250 ユーロほどとそんなに高くはないため、シュトゥットガルト大学に留学する人にはお勧めである。渡航前に案内がメールで届き申し込む。

## ⑧ 留学先での語学状況

授業はドイツ語のものと英語のものがあるので、そのどちらを選ぶかで授業で使う言語は決まってくる。日々雑談などする言語は、大学には留学生が多いのでその人たちと話すときは英語、ドイツ人やドイツ語のほうが得意な留学生と話すときはドイツ語という感じだった。買い物などするときや道を尋ねる時などはドイツ語のほうが印象がよいかと思い、ドイツ語にしていた。周りの留学生はもちろん、ドイツ人も英語が上手い人が多いので、英語で通すこともできる。ドイツ語も英語もどちらも上達できるチャンスがある。

## ⑨ 単位認定、在学期間

留学前に必要な単位はほぼ取ったため単位認定は行わない予定である。留学中は留学先での授業などに集中するため在学期間は延長する予定で留学を開始し、その通り在学期間を延長することにした。

## ⑩ 就職活動

在学期間を延長したため就職活動は来年の夏である。しかし、今年の夏休みのインターンシップの応募は留学中に行い、web 上でのテレビ電話による面接も行った。

## ⑪ 留学先で困ったこと(もしあれば)

特になし。

## ⑫ 留学を希望する後輩へアドバイス

ドイツは外国人も多いため留学生にとって住みやすい国だと感じた。また非英語圏への留学は英語だけでなくもう一つの言語を学び使うチャンスでもあるのでぜひ現地の言葉も出来るだけ勉強して留学に臨むとよい。まとまった期間海外で過ごし色々な国の人たちと一緒に過ごすという経験はなかなか出来ないと思うので、少しでも興味のある人はぜひ留学に踏み出してほしい。